

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年3月4日

事業所名 放課後等デイサービス ひばり (スタッフ4名)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4		静かな部屋で学習に取り組みたい児には療育室とは別の部屋を用意し行うことが出来ている。	
	2	職員の配置数は適切である	4			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	2		1階は全て車椅子移動ができるようになっている。2階への階段に手すりは付いているが、自力移動の出来ない児の利用ができない。その為、車椅子利用の児の受け入れはおこなっていない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4		各児の半年ごと(または必要時)の振り返りを指導員全員で行い個別支援計画書に記載する目標を更新している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		4		評価表は今年度が初めての実施、結果を今後の業務改善に繋げていく予定。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している		4		評価表が今年度が初めての実施、3月に各保護者に結果を配布し、ホームページの公開予定。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	2	改めては行っていないが、モニタリング時など事業所の評価を聞くようにしている。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		地域で行われている研修には積極的に参加している。児童発達支援管理者は県主催の研修会に参加し、職員への指導を行っている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	1	特に決められた専用のツールを使用していないが、子どもの行動観察や面談を行ったり、各検査結果等を参考に状況を把握している。	今後、標準となるツールを導入していきたい。(ボーディングプログラムなど)
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4		立案を指導員が行い、活動計画やルール作成を子どもたち自身で話し合っているように工夫している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		その時のニーズに沿った内容にしたり、季節に合わせた行事を入れたり、個別とグループともに必要に応じて更新している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4		平日、土曜日、長期休暇と個別でプログラムを使い分けるようにしている。土曜日、長期休暇を中心に課外活動を行っている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		朝礼で申し送りや気付き等を報告できるように、時間を取っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		共有するだけでなく、お互いが改善すべき点や次回行いたい支援について話したり、記録に記載し、次の支援に繋がるようにしている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	4			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4		サービス調整会議・関係機関連携会議の実施。学校によっては、担当が直接連絡を入れてくださる。	下校時刻の時間変更等の連絡が無い場合があり、困ることもあるので保護者からの変更連絡を確実にもらえるようにしたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		4		医療児ケア児の受け入れを現在行っていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	1		特に、就学前の情報提供を直接いただくことがない。担当の相談支援専門員から必要な情報をいただいている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		4		まだ、症例がないので行っていないが、今後情報提供を求められれば積極的に行っていきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	2	課外活動時など、その場で出会った一般の子どもさんたちと一緒に交わって活動することがある。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		連絡ノートへのお互いの記載、メールでのやりとり、送迎時など、保護者の方と気軽に連絡がやり取りできるように設定している。毎月、各児童保護者へ報告書を書いている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	2	ペアトレは行っていないが、必要とする保護者に対しては個別に話を聞き、指導している。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		随時、相談を受け行い支援に繋げている。月1回のオープンカフェも実施し、相談しやすい場作りを行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4		父母の会、保護者会の開催はないが、地域の親の会(柳井市・平生町・田布施町)の活動に参加し連携作りの支援することができている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3	1		体制はできているが、まだ苦情等を受け対応したことはない。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		毎月、予定表に記載し配布している。詳しい内容は、連絡ファイルに個別でお知らせしている。また、ホームページでも掲載している。	
	35	個人情報に十分注意している	4			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4		開設当時から、月1回定期的に「ゆるりカフェ」を開催し、地域の方が自由に入れるようにしている。行事等がある時は地域宅に回覧板を回しお知らせをしている。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	1		保護者さんへの周知が足りていないので、保護者用のマニュアルを制作(自宅保管用)したので3月に配布予定。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	1	3		該当者がいないので実施していないが、今後対象児がいれば記載する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4		契約時に、アレルギーに関する調査書をいただいている。対象の児に対しては調理実習や外食の時に配慮をおこなっている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4			